

新春を迎えて



一宮市長
中野 正康

新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は「コロナ」一色の年でした。横浜のクルーズ船のニュースから始まった新型コロナウイルス感染症により、3月からは市内の小中学校でも一斉休校、そして4月には緊急事態宣言で店舗の営業を控えていただくなど、これまでにない不便や不安を、市民や事業者の皆さまにおかけしたことが、心苦しい限りでした。

この年末年始も、市民の皆さまには“3密”を避けていただくなど例年とは異なる過ごし方をお願いしております。なんとか皆さまと力を合わせて、この難局を乗り越えて、今年こそは明るいニュースにあふれる年にしていきたいと願っております。

4月には、尾張地域で初めての中核市へ移行します。コロナ対策で中心的な役割を果たす保健所をはじめ、多くの仕事が県から市へ移ります。

■事務手続きのスピードアップ

■部署の枠をこえた連携

■独自ルールを取り入れたオリジナル施策

を柱に、例えば「福祉総合ワンストップ相談窓口」の設置など、市民の皆さまにメリットを実感していただける施策の準備を進めております。

9月には中島郡一宮町が「一宮市」となって100周年となります。この節目の年を、まちの魅力を再発見・再確認し、地元への誇りを育む機会にしたいと考えています。1月の林修先生の講演会を皮切りに、市民の皆さまに企画していただく事業などを幅広く展開して、笑顔あふれる元気な一宮市を次世代に引き継いでまいります。

コロナ禍で厳しい状況ではありますが、事態が好転するように全力で取り組んでまいりますので、市政へのご理解とご支援をお願い申し上げます。



一宮市議会議長
横井 忠史

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまには、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスによる感染が急速な勢いで世界中に拡散し、現在、日本国内においても国民生活や地域経済に多大な影響を及ぼし続けています。

国では、医療体制の整備や事業の継続支援など、様々な緊急対策を行うとともに、市でも市民や事業者の皆さまを対象とした独自の対策を進めていますが、未だ感染拡大が収まる気配は見えません。

このような中、市議会といたしましても行政とともに知恵を出し合い、感染防止対策と社会経済活動のバランスを取りながら、市民の皆さまが平穏な生活を取り戻せるよう努力をしてまいります。

さて、本市は今年、記念すべき市制施行100周年という大きな節目を迎え、尾張地域

初の中核市へ移行いたします。中核市となることにより、福祉、保健衛生、環境、都市計画、教育分野といった幅広い分野において多くの事務を県に代わって直接市で行うことができるようになります。市議会としても、市民の皆さまへ地域の実情に合ったより質の高い行政サービスを迅速な対応で提供できるよう、しっかり働き掛けをしてまいります。

今後とも、議員一丸となり、分かりやすく開かれた市議会となるよう、取り組んでまいりますので、市民の皆さまの一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、本年が皆さまにとってより良い年となりますよう祈念いたしまして、年頭のあいさついたします。